

日本の野鳥シリーズ

コクマルガラスを見つけた

技術営業部 佐藤 弘

ついに白黒のカラスを見つけた。ミヤマガラスの群に公園のハトなみに小さいコクマルが混じっていた。コクマルは黒色型と白黒の二つの型があるが、黒いミヤマの大群の中から一回り小さい黒色型を見つけ出すのは、車で通りすがりに眺めるだけの私には至難の業。だからより数は少ないが、遠目でも目立つ白黒型を気長に探していたら15年経ってしまった。ずぼらを絵に描いたようだ。

電線に止まるミヤマの群を初めて見た電力会社の技術者は、肝を冷やしたと思う。電線の強度計算で考慮するのは、自重の他には風圧や着雪荷重までだろうから、昔はまったく見かけなかったこんなデカイやつがズラリと止まるなんて想定外の筈だ。私たちの調査地にミヤマの体重計測データはないが、念のために調べると、小鳥用の網に掛かってしまったドジなハシブト成鳥の747gが見つかった。これから推測するとミヤマは600g前後はありそうだ。

だが、幸いにもミヤマは押しくらまんじゅうのめじろ押しはせず、飛び立つ時に隣と翼がぶつからない間隔で電線に止まる。しかし、飛び立つ際にはジャンプするからすごいGが掛かる。非力な私でさえ体重計に載って飛び上がったら、重量級力士なみの数値になり秤を壊しかねない。載り降りには静かにと言われるわけだ。ミヤマの群はシンクロしたように行動するから、一斉に電線から飛び立つ様を見た電力さんは、またもや肝を冷やしたのではないか。30gに満たないスズメが電線音頭を踊るのとはわけが違う。

トキの稿で、鳥は車中の人間にはさほど警戒心を持たないと述べた。電線に止まるミヤマの群の中のコクマルとの距離およそ10m。運転席の窓を顔のぶんだけ開けてコクマルと目があつたとたん、すべての鳥が飛び立った。悪党面はいつも損をする。

見つけうる確率が極めて低い鳥に巡り会えたので運試しに宝くじを買ったが、もっと確立が低いことはもちろん起こらなかった。

お客さま、謹んで新年のお慶びを申し上げます。本年もよろしくお願い申し上げます。

さて、前号では「おかげさまで ありがとう」について書きました。この言葉を発するとき、人はいかなる気持ちになるのでしょうか。何となくホンワカとして、心が温かくなるのではないかと思えます。また「嬉しい・楽しい・出来る・うまくいく」など人が嬉しくなったり元気になるような言葉のことを、「**明元素**」逆に「つらい・出来ない・だつて・どうせ」など人の気持ちを暗く悲しいものにさせてしまう言葉を「**暗病反**」と呼びます。

言葉には力があつて、明るい言葉には明るいものが、暗い言葉には暗いものが寄つてくると言われますが、確かに「類は友を呼ぶ」で、私もそんな経験をしたことがあります。人生山あり谷あり、辛い状況に陥ったとき、そうそう簡単に明るい言葉を発せられないこともありますよ。けれどやはり暗い言葉より明るい言葉を口にしていくほうが気持ちが少し軽くなり、よし頑張ろう、と思える。

そうしていくうちに徐々に事態が好転し、なかなかクリアすることが出来なかつたことが、解決の糸口が見つかりました。そうなると思える言葉が出やすくなり、更に気持ちが前向きになっていく。

どうやら「**明元素**」言葉は、良い方向へと切り替えるスイッチのようなものなのです。

少しでも「ホッと一息」ついていただけたらいいな、との思いで始めたこの通信ですが、気が付くと約一六年、今回で第70号を発行させていただくに至りました。

最初の頃はA4サイズ1枚であれこれと記載しておりましたが、お読みいただいたお客様から「字が小さくて読み辛いですので工夫を」との助言をいただき、現在の形となりました。また励ましの言葉を頂戴したり担当交代のお知らせをいただくこともあり、本当に有難く、継続の力となっております。

感謝・御礼申し上げます。これからも宜しくお願い致します。



お客様
元気通信
むけ

「明元素でいこう！」





昨年も忙しさであっという間に過ぎてしまいましたが、思わぬ事がいろいろと続き、結構大騒ぎした年だったなあ、と振り返ると、

フィリピンではドゥテルテ大統領になり、イギリスはEU離脱、どちらもまさかまさかの出来事で、決まってから大慌てしている感じ、それがそのまま持続したかのようにアメリカもトランプさんが次期大統領となった。これも大方の予想と大きく掛け離れた結果になり、世界の要人が大慌て。でもどうなるかは様子見で不安だらけ。世の中は変革が望まれているのか、現状に不満だらけの人が実に多かったと言うのか。

そこ行くと日本人は我慢強いと言うか、おおらかと言うか、安倍さんは数の力で強行採決の連続。それでも小池都知事が一生懸命変えようと努力して、でも旧態依然の方々の厚い壁に手こずっている様子。これが韓国ならデモで大騒ぎしているかな？ どうか？ 日本人で醒めてるのか呑気なのか、それとも平和ボケしているのか。大きな騒ぎにもならず、誰かが覚醒剤使ったとか、不倫騒ぎがいつまでも続くし、そんな話で盛り上がっている状態。

まあ私も結構呑気な方だけど、これからどうやって行くのか、酒呑んでる場合じゃない・・・、なんて言う気はない。

今日もおいしく呑める事に感謝し、今年の反省しながら大好きなお酒を頂きます。という事で私も呑気な日本人の一人なんだな。



★英語ってそんなに必要なの？★ エッセイ

生産部 島貴 修一

Happy New Year.

いきなり英語ですが、日本全体が「英語を話せなければならない」との強迫観念にかられているのではないかと以前から感じています。国際化とかポーターレスとか叫ばれているけど、高度な英語能力を必要とするのは特定の職種の人達だけで、大多数の日本人は「なんとか話が通じる」程度で足りるはず。ところが現実には「聞き流すだけの英会話教材」に英語留学に「幼児への早期英語教育」などと、英語の必要性が超特大に誇張されている。

更に英語を社内公用語にした有名企業や、英語で授業をする大学なんては過ぎたるは及ばざるがごとし。とは言ってもこの目的と手段を取り違えた英語狂想曲は終わりそうにない。それならばこのような世の流れに背を向け、他の人がやらない事に挑戦して我が道を切り開いて行くほうがおもしろいと思う。若ければだけど。

これからは英語を上手に話せる人が多くなるだろう。同時にそれは英語の価値が低くなるという意味にもなる。誰でも英語を話せるなら自分自身の英語能力は必要最小限にし、他の言語を習得して only one (英語だけ) になったほうが遥かに高い価値を持つ。私の知人にもドイツ語や中国語やロシア語に堪能な人達がいた。その人達にとって英語は外国語(数千語ある)の一つにしか過ぎないのだ。

私だったらスペイン語を選ぶだろう。ブラジル以外のラテンアメリカの公用語であり、北米でも重要性が増している将来性が高い言語だから。おまけにスペインとラテンアメリカの文化(特に音楽と料理)は魅力に満ちている。ついでにフランス語(カナダ東部)と、スペイン語とよく似ているポルトガル語(ブラジル)も学べば、北はアラスカから南はパタゴニアまで南北アメリカ大陸のどこへでも行ける。欲張りすぎかな。

◆ちょっと豆知識◆その30 「エビデンスの重要性」

技術営業部 部長 成田 護 (mamoru@shinyo.co.jp)

お取引先の皆様、新年明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。

相変わらずの補助金バブルで、来年ももの補助は継続とのこと。

お陰様で非常に忙しい一年を過ごさせていただきましたが、タンクの納期その他でご迷惑をお掛けした皆様方にはこの場をお借りしてお詫び申し上げますとともに、H29 年もより良い製品を皆様にお届けして参りたいと思いますのでどうぞ宜しくお願い致します。

さて、私どもはメーカーであると同時に、お客様のお役に立ちそうなものを仕入れて販売する商社的な営業活動も行なっています。

全体の売り上げからすれば構成比は微々たるものですが、その商品の独自性から、私どもが販売する商品は、全国のお客様から厚いご支持をいただいているものばかりです。

ネオクリーン、はなな、Vソール…。

お客様から「こんな商品を探して欲しい」「〇〇を取寄せられないか」といったご要望をいただき、メーカーや代理店と交渉を重ね、取り扱いをスタートした商品ばかりで、まさに「答えは現場にあり」を地で行っています。

と同時に、お客様に提示する資料に載せるデータ類は、可能な限り自社で実験して得られたものを載せるようにしています。

メーカーからもらうデータは、嘘ではないと思いますが、恐らくチャンピオンデータばかり。実情にそぐわないものもあるかも知れません。

ネオクリーンについては殺菌性、金属腐食性、残留分の分析方法などを徹底的に自社にて実験し、検証しました。

はななは、他の手袋に比べて臭くなりにくいのを検証しようと思いましたが、臭気を定量化する術がありませんでした。ガスクロを購入する訳にも行かず、たどり着いたのはタニタの口臭チェッカーによる測定でしたが、残念ながら「手の臭い」は測定できませんでした。発想としては良いと思ったんだがなあ…。

Vソールも、鉄板でスロープをつくり、グリセリンをまいてその上を歩き、業界最大手のメーカーの長靴と滑りにくさを比較しました。

私たちが商談するお相手は圧倒的に理科系の方が多いいせいか、検証データをお見せするほうが、下手な営業トークよりもよほど雄弁にその商品の良さを物語ります。

エビデンスを積み上げること、また、そのエビデンスを自社で積み上げられること。

それが当社の「強み」であると思っています。

